

アナザー ワールド

荻田 日出美

ふと見上げると夜空に星が いつになくきらめいていて
私の体にふりそそぐのだ。

目にうつるすべての星がキラキラとして 私のところに
集まってくる。そんな日には 面白い詩に出会う。

筋肉少女帯・大槻ケンジの『リンウッド・テラスの心霊
フィルム』という詩集のなかに「釈迦」という詩があっ
て 私は釈迦というヒトが好きだったし 仏教の世界も
般若心経も好きなので 最初に「釈迦」という詩を開く
と いきなり トロロの脳髄 トロロの脳髄という言葉
があって

トロロの脳髄というのは間違いで あのアニメのトトロ
の脳髄じゃないのかしらと考えていると

シヤララシヤカシヤカ

という合の手まではいるので 私はもう 釈迦という詩

を頭で理解しようとしてはいけないと感じてしまっ

ただもう シヤララシャカシャカ というリズムカルな
言霊の世界にどっぷりと浸かることにした。

それでも詩人は真面目ですから

「詩の読者は詩人の仲間だけになり、一般の知的社

会は詩を読まず詩人を相手にしなくなった」ー 加藤周一

という文章などあちらこちらで引用されたりするのだが

でも「ドーシテ」という前に 大きな風呂敷とかシート

とか カーテンとかで この「言葉」でしかものを見ら

れないヒトの前にあるものを梱包してみようじゃないで

すか。クリストというアーティストがしたように 梱包

したり巨大な傘を立てたりして景色を一つ変えてみよう

シヤララシャカシャカ

シヤララシャカシャカ 詩人だからって深刻がら

なくともよいのだと そう思うわけ。

ふと見上げると 月は満ちて 私の体にまぶしいほどの

光のプラナをふりそそいでいた